

## 横手市におけるかまくら祭りの存続要因に関する研究

大日向 聖耶

本研究は、「横手のかまくら」と「かまくら祭り」の歩んできた歴史を調査しつつ、「かまくら祭り」の関係者に聞き取り調査を行い、「かまくら祭り」が450年続いた要因を明らかにすることを目的とした。

筆者は、2024年8月から9月にかけて一般社団法人横手市観光協会に聞き取り調査を行った。その結果、時代の変化が「横手のかまくら」にも及んでいるが、その変化に対する人・モノ・お金・場所の4つの要素の対応が、今まで続いてきた要因と関わっていることが明らかになった。

人がいなければ祭りを開催することができず、モノがなければ準備ができない。お金がなければモノを準備できず、場所が用意できなければ人を呼ぶことができないというように、4つの要素は絡み合っている。人では、少子高齢化に伴って人口減少や後継者不足が課題になっており、その対策として市内の中高生に募集をしておもてなしをしてもらったり、かまくら職人では新規の職人を増やしたりしていた。モノでは、気温との関係で時代によって積雪にばらつきがあるため、雪が少ない時は市外から運んできたり、冬季封鎖された道路から運んだりしていた。お金では、雪まつりの収支が課題となっているが、支出が多い分その他の祭りでお金を回収しバランスを取っていた。場所では、昔は各家々でかまくらを作っていたが、市の発展・開発とともに作られなくなっていたので、会場を決め一か所にまとめて作成することにした。

このように、「横手のかまくら」は時代の中で課題に直面しながらもその時々で柔軟に対応してきたことによって、これまで続いてきたことが明らかになった。